

マイナ保険証ひも付けミス

名前前の読み仮名 字体違っただけで

マイナンバーカードの健康保険証利用をめぐる、ひも付けのミスや未完了が相次いで発生しています。トラブルに巻き込まれた当事者から、不安や憤りの声が上がっています。

(福藤敬佑)

「どうしてこんなことで困らないといけないのか。非常に腹立たしい」。そう話すのは、岡山市の女性(50)です。「行政は自分たちの不手際を隠そうとしているのではないかと疑いの目を向けます」。

追加の負担発生

女性は今年7月、岡山市内のクリニックを受診。その際、マイナンバー



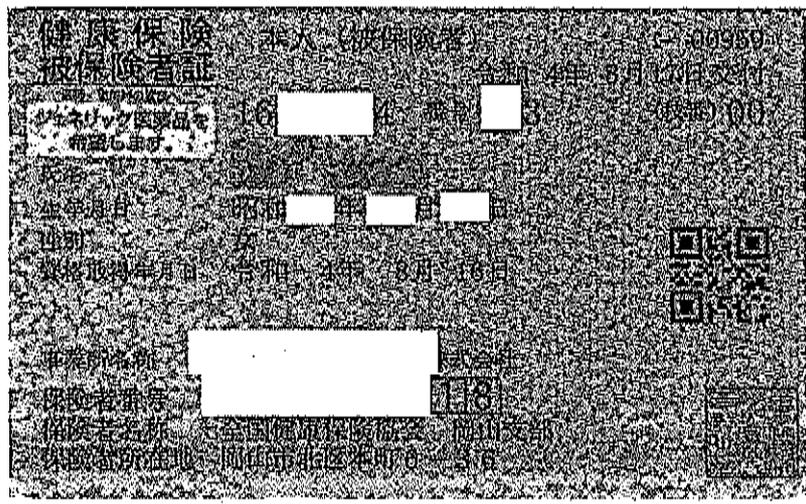
8月のエラー発生後、女性はマイナンバーで資格情報を確認。マイナンバー上の情報と保険証の情報は本来のものはなく、何の番号か不明なものが表示されました。

女性はマイナンバー

当事者「見切り発車見直して」

「下が保険証として利用できず、現行の健康保険証を利用したために、追加の負担が発生しました」。

女性はトラブルを早急に解決しようと、昨年一時的に加入していた国民



女性の協会けんぽ発行の保険証(女性提供、一部画像加工)

健康保険を担当する市を含め、関係する機関に複数回問い合わせを行いました。「窓口ごとに、担当者からたらいまわしにされた」と憤る女性。複数回のやりとりで、8月中旬、エラーの発生原因が名前の読み仮名であることが判明しました。マイナンバーに登録されている名前のカナ字体と、健康保険のカナ字体が異なっていたのです。

国民ないがしろ

女性は、行政手続きのデジタル化は進めるべきだと立場です。一方、「政府は見切り発車で進めている。国民をないがしろにしているようだ。今の進め方は見直しがないといけない」と、早急なデジタル化を批判します。

マイナンバーカードの保険証利用をめぐるのは8月24日、厚生労働省の調査で、利用できない状態が77万件あることが判明しています。

協会けんぽは本紙の取材に、「疑わしきは情報連携を止める」方針を取っている」と回答。カナ表記のゆれがある場合も、情報連携を止める対象になりうるとうしました。ひも付けミス当事者から問い合わせがあった場合も「本人特定に時間がかかる場合はある」としています。